

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-b8 身近な疫学を学ぶ		
対象学部	医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	佐藤 泉美	責任部局	医学部医学科
趣 旨	疫学とは、人集団の健康関連の状態や事象の頻度・分布や決定要因を明らかにし、それらを健康問題の予防や制御のために役立たせる学問である。人々にとって疾病や健康問題は身近な関心事であり、社会生活にも大きく影響するため、公衆衛生的観点からも疫学は重要である。医療的な視点に加えて、経済、環境、地理、交通、行政など多様な因子を包括的に検討することも大事である。 本モジュールでは、身近な疫学の事例を通して疫学への理解を深め、実習を通して疫学の基本的な手法を学ぶ。		
プラネタリーヘルスとの関連性	社会全体に影響する人集団の健康問題の解決や向上に資する。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	本モジュールでは座学だけでなく、解析ソフトを使った実習やグループワークを行う。自分自身で考え発言し行動できる自主性・積極性、他者を尊重し協力して課題に取り組める協調性やコミュニケーション力、他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を養うことを目指す。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
疫学研究概論	佐藤 泉美	身近な疫学研究例から疫学の基礎を学ぶ。	疫学、要因、因果関係、疫学で使われる指標、データ、統計、研究デザイン	○
疫学研究演習	佐藤 泉美 植木 優夫	身近なデータを用いて健康関連の状態や事象の頻度や分布を明らかにし、グループで問題点の抽出やそれらの解決策を検討する。	記述統計、人口動態、医療・介護、地域、地理	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	へ国の関心・地域社会	取人り文扱科う学の内容を	取り社会扱科う学の内容を
疫学研究の基礎を学ぶ	◎	○	○		◎	○	◎			○	○	○
身近な疫学研究を知る	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○
◎（特に重視）の数	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0
○（重視）の数	1	1	2	1	1	2	1	0	0	1	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

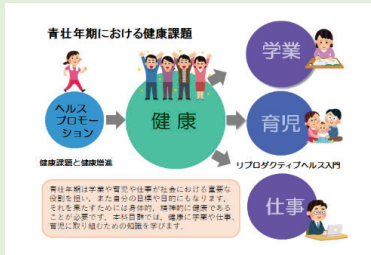
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-b9 病気を治す		
対象学部	医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	松本 桂太郎	責任部局	医学部医学科
趣 旨	日本における死亡原因の1位は「がん」です。がん治療は、外科治療、放射線治療、薬物治療に大きく分類されますが、その中でも外科学治療は大きな役割を担っています。外科治療は患部とともに周囲の正常組織もある程度切除します。つまり、がんになった臓器の機能が低下します。これをいかに少なく切除するか、回復をどのように行うかということが、がんを治しながら充実した生活を送る重要な課題になります。この講義では、第一部でがん治療における外科治療の役割、方法、治療のメカニズムを講義し、第2部では呼吸機能を中心とした臓器機能のメカニズム、機能補助、回復について、肺移植、人工呼吸器、ECMO、リハビリテーションの視点からわかりやすく探っていきます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	治療による生体機能の喪失と侵襲を最小限とし、回復を正しく図ることで、早期の社会復帰を果たし、社会生活に再び貢献することはプラネタリーヘルスと関連する。	説明動画	教養モジュールⅡ ～生命医科学からの学び～ 病気を治す（24-b9） <u>“がん”と外科治療</u> 1Q：4/8火曜日から6/10火曜日の4・5校時
学生の皆さんへのメッセージ	がんを例として、外科治療の本質と具体的方法、その進化についてお話しします。病気を治す考え方、からだの機能とその役割、そしてその機能を回復する方法など、健康の本質に関わることをわかりやすく解説します。また、最新のロボット手術なども含めて、科学的技術の進歩も合わせて提示し、医療と科学、工学分野の連携についてもお話しします。みなさんが健康で生き続けるヒントになると思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
がんと外科治療	松本 桂太郎 荒井 淳一 野中 隆 宮崎 拓郎 大坪 竜太 土肥 良一郎 橋本 泰匡 高村 祐磨	日本で罹患率が高い、肺癌、乳癌、大腸癌について、外科治療を中心とした最先端医療の現状をお話しします。外科治療に伴う体のダメージや損失と最新技術によるダメージを減少させる方法とそのメカニズムを講義します。	癌 手術 ロボット手術 機能生活	
外科治療とからだの機能	松本 桂太郎 山根 裕介 富永 哲郎 高畠 英昭 一ノ宮 大雅 今村 歩 濱田 隆志 小畑 智裕 光成 健輔 谷口 大輔	病気による体の機能損失について、特に呼吸器を中心に講義を展開します。肺移植による機能回復の治療、呼吸器のメカニズムと一時的呼吸機能のサポート方法（人工呼吸器、ECMOなど）および手術後のリハビリテーションによる機能回復の方法について講義をします。	手術 臓器機能 機能回復 リハビリテーション 移植医療	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力や取り	国際・地域社会への関心	取入り文科学の内容を	取入り文科学の内容を
がんと外科治療	◎	○	○	○		○		○	◎	○		○
外科治療とからだの機能	◎		◎	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
○（重視）の数	0	1	1	2	1	2	1	2	0	2	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-b10 青壮年期における健康課題		
対象学部	医学部医学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	田中 貴子	責任部局	医学部保健学科
趣 旨	健康とは単に病気がないという状態ではなく、身体的・心理的・社会的・霊的に安寧状態をいう。また健康課題を考えると病気や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる（共生）という視点が重要である。 そのためにモジュールⅡではモジュールⅠを基礎として、ライフサイクルの中でも特に青壮年期における基本的な健康課題と健康増進さらに結婚、妊娠、出産、育児を含めたリプロダクティブヘルスに関する健康課題について教授する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	次世代に向けて、リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）に関する健康課題からプラネタリーヘルス（地球の健康）を考える。 次世代、リプロダクティブヘルス、プレコンセプション、性感染症、避妊、SDGs	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	特に前提知識は必要ありません。自身のために必要な健康増進や結婚・妊娠・出産・育児を含めたリプロダクティブヘルスに関心がある方、周囲と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。本カテゴリーでは、教室内における参加型学習やフィールドワークを取り入れますので、知識や技術を主体的に学び、今の生活や将来に役立ててほしいと思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
健康課題と健康増進	田中 貴子 柳田 頼英 古川 美和 富永 ちはる	青年期にある大学生にとっての健康とは何かを学び、健康、体力増進のためのトレーニング、メンタルヘルス、食生活等について学び、自身の健康について考える。	健康、体力、食生活、メンタルヘルス	
リプロダクティブヘルス入門	永橋 美幸 宮崎 あすか	結婚、妊娠、出産、育児を含めたリプロダクティブヘルスに関する健康課題について学び、自らの課題として解決方法を考え、自分自身の健康につなげる。	リプロダクティブヘルス、プレコンセプション、結婚、妊娠、出産、育児	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	へ国の関心・地域社会	取入り文科学の内容を扱う	取り扱われる学の内容を扱う
健康課題と健康増進	◎	◎	◎		○			○	○		○	○
リプロダクティブヘルス入門	◎	◎	◎				○	○	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	0	0	0	0	1	0	1	2	2	1	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-b11 口腔健康管理と審美		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	佛坂 斉社	責任部局	歯学部
趣 旨	現代社会は技術と情報化が進歩し、人々に便利で快適な生活提供していますが、一方で、種々の問題を抱えています。現代社会の急激な変化に適応できず、人々は様々なストレスを抱え、それは徐々に大きくなり、知らず知らずのうちに、健康と機能美に悪影響を及ぼしています。そこで、安全な食品、病気の予防や健康などに対応する社会的要望は世界的に高まっています。 健康とは、身体と精神が健全であり、それがさらに社会的に調和のとれた状態のことです。また、「美しさ」は、外見だけではなく、心と身体の健康があって初めて成り立つものです。真の意味で美しく健康に生きるためには、食・心・健康・美を総合的に捉えていく必要があります。 このような背景を受け、豊かな社会生活を営む上に必要な「食育、口腔予防医学、機能健康美」についての情報を広く提供し、健康増進法を習得するための知識を活用することを教育目標としています。		
プラネタリーヘルスとの関連性	多様な生物の食が互いの生物間に関わり、ひいては生態系に及ぼす影響を学ぶ。 キーワード：生物の多様性、生態系	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	「食」「美」「健康」に広い興味や関心のある人、大歓迎です。細胞生物、ストレス、予防医療、審美、老化に関わる基本的知識から専門的知識の習得を目指して、教員たちとコミュニケーションを図りつつ、他の学生さんと協働して学習を進めていきましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
審美	尾立 哲郎 平 曜輔 右藤 友督 江越 貴文 田上 直美	美とは何か、その歴史、およびその表現についての理解を深め、美に関わる医療を学ぶことによって、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に役立てる。	美学・審美歯科・ホワイトニング・顔面形態異常	
食の科学	川下 由美子 五月女 さき子 久松 徳子 日高 聖 佛坂 斉社	食べることは生きる事そのものである。「口腔と歯」は生きる事の入り口である。食に関連した人体の構造、機能とその疾患について、また栄養学的、予防医学的な観点から教養を深める。	摂食嚥下機能・栄養・メタボリックシンドローム・予防医学・様々な生物の食	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	へ国の関心・地域社会	取入 り文 扱科 学の 内容を	取入 り文 扱科 学の 内容を
審美	◎	◎		○	○	◎	○		○	○	○	○
食の科学	○	○		○		◎	○		◎		◎	○
◎（特に重視）の数	1	1	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0
○（重視）の数	1	1	0	2	1	0	2	0	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目